Ask yourself...

私たちはサッカーだけやっていればいいのだろうか。

大学生として立派な社会人になるために

何をすればよいのだろうか。

人として社会のために何ができるのだろうか

学生が自ら率先して、考動する。

それぞれの考動が誰かの、光になるように。

その考動に私たちは賛同し、多くの機会を与えたい。

それが未来の、光になるように。

できることから『行動』を

Take Action

プロジェクト立案者：　石井　裕之、岡嶋　直道、櫻井　友

プロジェクト開始日：　2015.03.06

Action 1 ONE GOAL ONE COIN

●ONE GOAL ONE COIN

ONE GOAL につき ONE COIN（\500）を本連盟より寄付する。ただし異議、遅延による警告や一発退場は寄付金額からマイナスする。技術の向上はもちろんのこと、フェアプレーの精神を大切にし、サッカーに関わるすべての関係者の意識の向上を目指す。学生が直接的に金銭的な社会貢献活動をするのは、困難であるが、本企画を通して、大会における選手の活躍（勝利に向けた熱くフェアなプレー）によって間接的に社会貢献に 携わってもらい、将来的に社会のために、誰かのために活躍できる人材を育成していく。

→寄付先は Unicef（日本ユニセフ協会を通じて）

2018年度 JUFA 公式戦 100 試合

1 試合平均ゴール数 3.51　警告数 1.67　退場 0.04　異議遅延 0.18　警告なし 0.27

2017年度 JUFA 公式戦 100 試合

1 試合平均ゴール数 3.38　警告数 2.16　退場 0.10　異議遅延 0.23　警告なし 0.17

2014 年 WC ブラジル大会 64 試合

1 試合平均ゴール数 2.70　警告数 2.80　退場 0.20　警告なし 0 試合

Action 2 障がい者との共生

●日本知的障がい者サッカー連盟とのパートナーシップ協定

2016 年 12 月 17 日に日本知的障がい者サッカー連盟とのパートナーシップ協定を締結

締結以前にもサッカー教室の開催などのボランティアスタッフの派遣等を行い

サッカー界の発展のみならず、障がい者と健常者が当たり前に混ざり合う社会を目指す。

～活動実績～

毎月障がい者サッカー教室での運営補助
各種障がい者スポーツイベントの運営補助
年に一度障がい者サッカー教室の主催

Action 3　ウェルフェアオフィサー

▼ JUFA としてのウェルフェアオフィサー

近年、国際化や様々な価値観、生活様式の多様化が進んだことにおいて、日本の社会のみならず、サッカーを取り巻く環境においても、差別や暴力に対する認識等に対して脆弱な意識、思考、行動が見受けられる。

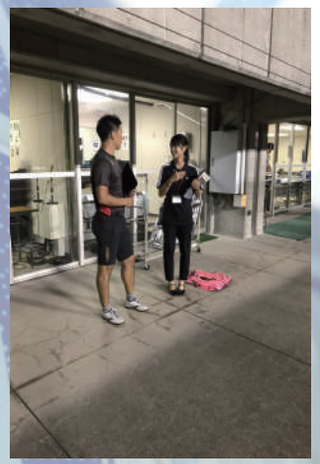
その中で、ウェルフェアオフィサーを設置することによって、サッカーに関わるすべての人が安全にサッカーを楽しむことができる環境を作り出すこと。

ウェルフェアオフィサーは、リスペクトやフェアプレーを啓発、促進し、暴力、差別等の予防活動を通じて、問題を未然に防ぐ。また、顕在化した諸問題に対応、問題解決を図ると共に、問題の内容や重大さによって司法機関や諸関連組織への橋渡しとしての役割を担う。

JFA での取り組みでは指導者がオフィサーとなり、これらの活動を実施している。

しかし , 大学サッカーでは大学サッカーだからこその着眼点をもつ必要性があると考える。

大学生年代は社会的に「成人」となり、「社会的責任」が発生する年代である。学生ではあるが、１人の責任ある人間として、サッカーに関わらず様々な状況下において判断をそれぞれでしなくてはならない。そこで JUFA では、大学サッカーの主役である学生をオフィサーとして配置し、学生オフィサーが指導者やプレイヤーに対して、自らが感じた『気づき』を伝えることとした。安心・安全な試合環境をつくるために実際に指導を受ける“受け手＝学生”に重点を置き活動し、サッカーを取り巻く環境の“ウェルフェア”醸成に努め、よりサッカーを楽しめる環境になるよう活動している。



Action 4　環境問題について

●全日本選抜チームが海外大会参加時の清掃活動

・2017 年ユニバーシアード台北大会において選手村付近の清掃

→現地ニュースにて紹介

・2017 年アジア大学選手権大会 (韓国) において控え室及び競技場の清掃

→現地ニュースにて紹介

●主催各種大会にてペットボトルキャップ収集活動実施

●ペーパレス化による事務消耗品を 5 年間で 1/2 削減

●ウェアやボールの再利用(アジア・アフリカへ寄贈)

Action 5　team unicef

●スポーツを通じての支援

・世界手洗いの日

→運動する子どもたちに手洗いの大切さを

教え普及活動のダンスを踊る

・世界トイレの日

→世界はトイレを使えない子どもたちの

現実を分かり易く説明

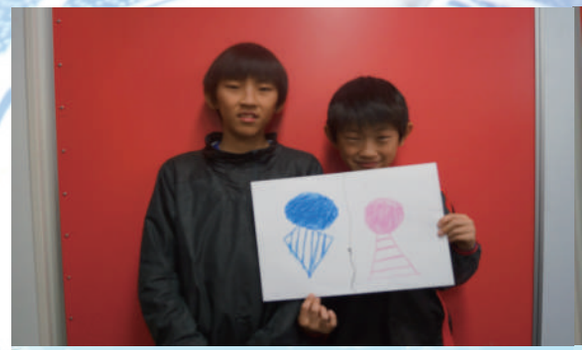
・ふじ幼稚園にてサッカー教室

→日本ユニセフ協会より支援を受けた

ふじ幼稚園にて子供たちと交流

関係者から震災当時の様子や

ふじ幼稚園再建への道のりの様子を聞く



Action 6　各種講演会

●各種講演会の実施

・ホロコーストサバイバーの話（アヴラム・グラント氏　元 FC チェルシー）

・ホロコーストについて（石岡　史子氏　ホロコースト教育資料センター理事長）

・イスラエルとパレスチナについて（村橋　真理氏　Peace Field Japan 理事）

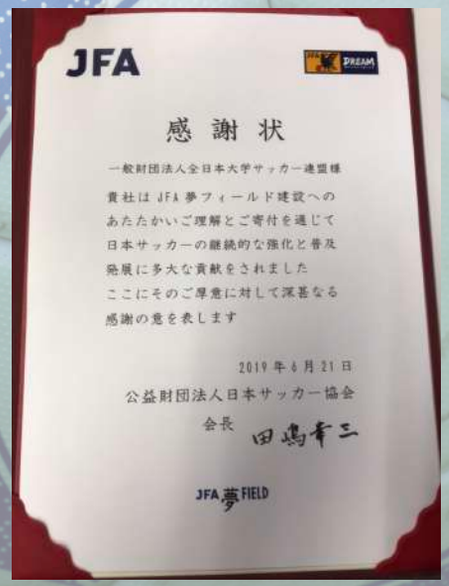
・東日本大震災復興支援講演　1000 年後の命を守るために（渡邊　滉大氏　東北学院大学１年　他３名）

・東日本大震災からのJヴィレッジ復興に関して(上田　栄治氏　株式会社Jヴィレッジ代表取締役副社長)

Action 7　各種寄付行為

●各種寄付の実施

- 被災地域への義援金
  東日本大震災(130万円/連盟予算の1%相当)
  熊本地震(150万円/連盟予算の1%相当)
  令和元年台風第19号(150万円/連盟予算の1%相当)
- スポーツ施設建設ための寄付
  Jヴィレッジ(30万円)
  高円宮記念JFA夢フィールド(30万円)
- その他の寄付
  日本ユニセフ協会賛助会員
  寄付月間Giving December リードパートナー(スポーツ団体唯一のリードパートナー)


JFA

感謝状

一般財団法人全日本大学サッカー連盟様

貴社は JFA 夢フィールド建設への
あたたかいご理解とご寄付を通じて
日本サッカーの継続的な強化と普及
発展に多大な貢献をされました
ここにそのご厚意に対して深甚なる
感謝の意を表します

2019年6月21日
公益財団法人日本サッカー協会
会長 田嶋幸三

JFA夢FIELD

unicef

Membership Card

(公財) 日本ユニセフ協会団体賛助会員証

(一財) 全日本大学サッカー連盟様

賛助会員番号 AA 130689

賛助会員期間 2019 年 11 月 ～ 2020 年 10 月

皆様がお寄せくださいましたご協力により、世界の子どもを
守るためのユニセフ協力事業を
推進できますことを心より感謝申し上げます。

Thank you for your
active participation in helping UNICEF
bring good health, happiness and hope
to millions of children in the
developing countries of the world.

公益財団法人 日本ユニセフ協会（ユニセフ日本委員会）
〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス
TEL.03-5789-2012 FAX.03-5789-2032
URL:http://www.unicef.or.jp

New Action #ATARIMAENI

当たり前を変える

大学サッカー発 暴力、差別、不正行為根絶のための"ATARIMAENI"キャンペーン

暴力、差別、不正行為はあってはならないことが"当たり前"であるべきなのに、
それが「当たり前」ではないのかもしれないという疑問からスタート
スポーツの指導現場にて、「このくらいの体罰は、昔なら"当たり前"だ」と
いう声を聞く。しかし、現在の社会において体罰は許されるものではない。
既存の"当たり前"を変えない限り、社会から暴力、差別、不正行為は
なくならない。今こそ既存"当たり前"を壊し、暴力、差別、不正行為がない社会
ATARIMAENIという願いが込められている。

当たり前とは
1.誰が考えてもそうであるべきだと思うこと、当然なこと
2.普通と変わっていないこと

昨今スポーツ界そして社会で表面化している暴力、差別、不正行為
このようなことが起きてしまうこと自体馬鹿げている
何故ならば当たり前過ぎることだから
ただ、その当たり前さえできていない私たちにできることは何だろうか
過去から踏襲されてきた当たり前をもう一度考え直すことだ
当たり前を変えろ
そして

#ATARIMAENI

当たり前を変える